

(ひと) ウォルター ルーウィンさん 1日6千人が授業を見る米マサチューセッツ工科大の教授

朝日新聞 2013年1月21日



約束した時間の少し前に部屋をノックすると「9分後に出直してくれないか」。信条が「物理学は測定できなければいけない」とあって「時間の測定」に厳しい。

専門は宇宙物理学。大学の無料ウェブ講座で公開された104本の授業が爆発的な人気を呼び、今では1日平均6千回のアクセスがある。一昨年退職したが、ウェブ受講者に認定書を発行する「特命」で現役に復帰。授業を紹介する番組までNHKで始まった。

真骨頂は体を張った実験だ。天井からひもで斜めにぶら下げた重さ15キロの鉄球を顔の前で放す。鉄球はブランコのように戻ってくるが、決して顔にはぶつからない。命がけで「エネ

ルギー保存の法則」を実演する一コマだ。

マイクロソフトのビル・ゲイツ氏も受講者。一昨年発刊され、10カ国語に訳された『これが物理学だ!』(文芸春秋)に「ルーウィン氏のたぐいまれな知性と物理への情熱、教育者としての技量の一面を捉えている」との言葉を寄せた。

毎朝、世界中から届く30~40件のメールに返事を書く。返事だけで1日が終わりそうだが「1件5分以内、1日2時間」。やはり時間には厳格だ。

世に多い「物理嫌い」について「理由は一つ。教えた教師が悪いからだ」とバツサリ。「理解されない数式よりは、物理の美しさや興奮を伝えた方がいい」

(文・写真 行方史郎)